



...for patient comfort.

第42期 中間報告書

2021年4月1日 ▶ 2021年9月30日



ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年3月期上半期は、新型コロナウイルスの変異株の流行による感染拡大がありました。主力であるEP/アブレーションにおいて症例数が回復したことにより、売上高は概ね計画水準となり、各段階利益は計画を上回りました。下半期に向けて、内視鏡レーザーアブレーションカテーテル等の新商品について、医療現場への早期普及に取り組むほか、新領域への本格的な展開を図るため、消化器領域の医療機器の開発にも力を注いでおります。引き続き既存事業の強化や収益性の改善に取り組むとともに、新領域への展開を積極的に行うことで、中長期にわたる持続的な成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介

新型コロナウイルスの業績への影響について教えてください。

当上半期は、7月から8月にかけて過去にない規模で感染が急速に拡大し、医療機関において緊急性の低い手術が延期されたことにより、当社の販売にも一定の影響がみられたものの、売上高は概ね計画水準を達成することができました。また、コロナ禍において営業活動が抑制されたことや一部費用の縮減等により、営業利益は計画を上回りました。

足元の状況といたしましては、日本全国でワクチン

接種が進んだことで、9月以降、感染者数は激減しており、心房細動のアブレーション治療の症例数も回復基調が鮮明になっております。また、8月に上市した待望の新商品である内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight X3」については、計画を上回るペースで普及が進んでおります。販管費については、新製品開発を積極的に推し進めているため、研究開発費等は対前期で増加を見込むものの、営業関連の費用は計画の水準に収まる見通しであり、引き続き期初の業績計画の達成に向けて取り組んでまいります。

主力の不整脈治療ビジネスについて、今後の展望を教えてください。

リズムデバイスは、2019年9月にボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社（以下BSJ社）との協業を開始して以来、順調にシェアを拡大し、協業の開始前に比べ売上高が倍増いたしました。来年4月には、出向社員として受け入れているBSJ社社員が当社に転籍予定であることから、これまで以上に一体感をもった組織体制を構築し、販売効率を高めることで収益性の向上を図ってまいります。

EP/アブレーションは、心房細動のアブレーション治療の症例数増加が予想されることから、心腔内除細動カテーテルをはじめとする自社製品の販売増加が見込まれます。さらに、新商品である内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight X3」の早期普及に努めることで、治療用デバイスの売上の底上げを図ってまいります。

新領域の開拓のねらいについて教えてください。

当社は、約40年にわたり心臓血管領域の医療機器を取り扱い、商品ラインナップを広げるとともに、循環器内科や心臓血管外科を中心とする全国の医療関係者との信頼関係を築いてまいりました。この間、商社機能に加え、メーカー機能を併せ持つ企業へと進化し、成長してきました。そして現在は、メーカーとしての独自技術や、商社としての幅広い知見を活かし、消化器をはじめとする新領域の開拓に取り組んでおります。

消化器領域では、既に販売している大腸ステントや肝臓治療用ラジオ波焼灼電極針のほか、2021年9月には胃・十二指腸ステントの販売を開始するなど、ビジネスは着実に成長しております。さらに

2023年3月期の下半期には、新たに胆膵関連の製品群の上市を計画しております。独自のコンセプトに基づき開発した自社製品により、心臓血管領域で築いてきたような強固な医療現場とのネットワークを構築し、新たな収益の柱に育てていく計画です。こうした取り組みを通じて、中長期的に売上高における自社製品比率60%を目指してまいります。

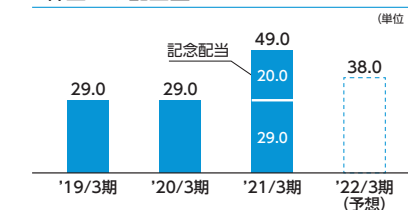


肝臓治療用ラジオ波焼灼電極針「arfa」

株主還元の方針について教えてください。

業績および今後の開発・投資における資金需要等を勘案し、必要な内部留保を確保しながら安定配当を継続するとともに、適宜還元策を実施させていただきます。当期は、営業キャッシュフローが安定的に推移していることから、株主の皆様への還元を拡充し、普通配当を9円増配し、1株当たり38円（配当性向40.4%）とさせていただきます。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援のほど何卒よろしく申し上げます。

1株当たり配当金



業績ハイライト

売上高及び損益について

第2四半期を中心に新型コロナウイルスの変異株が流行したことを受け、当社の取扱商品においても、待機的症例の延期等による一定の影響がみられました。こうした中、EP/アブレーションの症例数が回復したこと等により、一部商品の販売終了等の影響があったものの、売上高は前年同期に比べ増加しました。利益面においては、EP/アブレーションや外科関連における自社製品の売上高が前年同期に比べ大きく増加したことにより、売上高に占める自社製品比率が上昇し、売上総利益率は前年同期の55.2%から56.9%に改善しました。また、販売費及び一般管理費において、新商品の導入に係る治験費用や研究開発費、さらに旅費交通費や広告宣伝費等の営業関連費用が前年同期に比べ増加したものの、営業利益は前年同期に比べ増加しました。

単位：百万円

	2021年3月期 上半期	2022年3月期 上半期	前年同期比
売上高	24,453	25,130	+2.8%
営業利益	4,369	4,681	+7.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,784	3,591	+29.0%

品目別の販売状況

リズムデバイスは、ペースメーカー関連商品の販売が増加した一方、ICD関連商品の症例数の減少を受け、ほぼ横ばいとなりました。EP/アブレーションは、症例数が回復基調となったことにより、当社のオンリーワン製品である心腔内除細動カテーテルや食道温モニタリングカテーテル等の販売が堅調に推移したこと、また、2021年8月に発売した内視鏡レーザーアブレーションカテーテルの新商品「HeartLight X3」の拡販に努めたこと等により増収となりました。外科関連は、人工血管やオープンステントグラフトの販売は堅調に推移したものの、2021年4月に血液浄化事業を譲渡したことから減収となりました。インターベンションは、消化器関連の自社製品である肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針や大腸ステントが、新規施設の開拓等により好調に推移した一方、PI（経皮的インターベンション）関連が、症例数の大幅な減少や一部商品の販売終了等の影響を受けたことにより減収となりました。

品目別の概況

リズムデバイス

不整脈を治療する
植込み型の医療機器を扱う

▼主要取扱品目

- 心臓ペースメーカー
- ICD（植込み型除細動器）
- S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）など



売上高
6,577 百万円
(前年同期比 **+0.7%**)

EP/アブレーション

不整脈の検査や治療を行う
電極カテーテルを扱う

▼主要取扱品目

- EP（電気生理用）カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル など



売上高
12,332 百万円
(前年同期比 **+8.4%**)

外科関連

大動脈疾患を治療する
医療機器を扱う

▼主要取扱品目

- 人工血管
- オープンステントグラフト
- ステントグラフト など



売上高
4,409 百万円
(前年同期比 **△1.8%**)

インターベンション

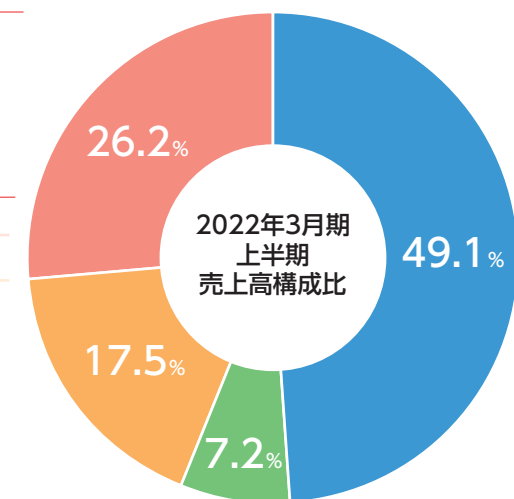
虚血性心疾患や消化器疾患等
を治療する医療機器を扱う

▼主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- 薬剤溶出型冠動脈ステント
- 大腸ステント など



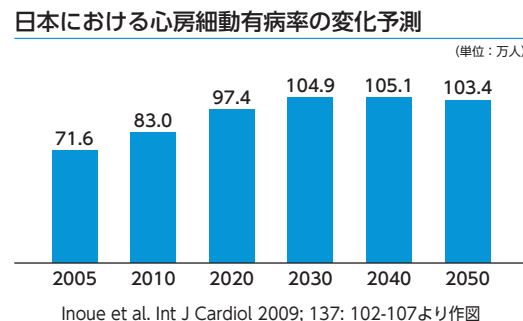
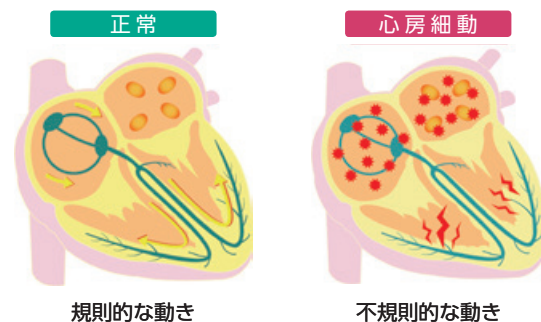
売上高
1,810 百万円
(前年同期比 **△12.1%**)



心房細動とは？

心房細動とは、心房と呼ばれる心臓内の部屋が小刻みに震えて痙攣し、正常に機能しなくなる不整脈の一種です。心房細動が起こると、血液の滞留により、血栓が形成されやすくなります。この血栓が血流に乗り他の臓器の血管を塞いでしまうことにより、脳梗塞等の動脈塞栓症を引き起こす危険性があります。高齢化に伴い患者数は増加しており、2030年には日本において100万人を超えると予想されています。

心房細動の治療には、外科手術による治療、薬剤による治療、そしてカテーテルを用いた経皮的な治療であるアブレーション治療（心筋焼灼術）があります。



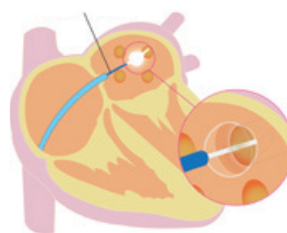
新しい医療機器がアブレーション治療の進歩に貢献

アブレーション治療には、検査用や治療用の様々なカテーテルが用いられており、新しい医療機器が開発・導入されることにより、治療の効果、安全性や効率性が向上しています。

近年では、バルーン型のアブレーションカテーテルによる治療が行われるようになってきました。従来のアブレーション治療が、心筋を1箇所ずつ点で焼灼するのに対し、バルーンを心房細動の起源とされている肺静脈付近の心筋に密着させ、線状に焼灼することで効率的な治療を可能としています。

現在、バルーンアブレーションカテーテルには、冷凍、高周波による加熱、そしてレーザーによる加熱の3種類の焼灼方法があり、当社では内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight」を2018年7月に発売しました。

バルーンアブレーションカテーテル



HeartLight X3を発売

当社は、2021年8月に「HeartLight」の後継品として新たに「HeartLight X3」を発売しました。モーターコントロールによる連続的な焼灼が可能となったこと等により、手技時間が従来品に比べ約半分となりました。さらに従来品と比べ、柔軟なバルーンを採用することで、多様な肺静脈の形状に適合し、肺静脈との密着度が高まったこと等により、高い治療効果（洞調律維持率）を実現しました。

既に本商品を用いて症例を実施した医療機関からは、高い評価をいただいています。当社では今後も、引き続き「HeartLight X3」の採用施設の開拓に取り組み、内視鏡レーザーアブレーションシステムを用いた治療の普及・浸透に努めていきます。



内視鏡レーザーアブレーションシステム「HeartLight X3」
左：カテーテル 右：コンソール

最新最適な医療機器を届ける当社の取り組み

内視鏡レーザーアブレーションシステムを導入するために、海外からドクターを招き、医療機関において高度なトレーニングを実施するとともに、医療従事者向けのウェブサイトを開設し情報提供等を行っています。また、医療現場においては、専門知識とスキルを備えた当社の担当者が、適切に治療が行われるようサポートしています。

当社は約40年間にわたり、心臓血管領域の医療機器を日本の医療現場に届けてきました。自社製品はもとより、海外メーカーの最新の商品についても、国内に迅速に導入することにより、日本の医療現場でいち早く利用できるよう、今後も取り組んでいきます。



トレーニングの様子



医療従事者向け情報サイト

株主さまアンケートご協力をお願い

当社では、株主の皆さまの声を今後のIR活動等に反映するため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、ご協力をお願いいたします。(所要時間は5分程度です)

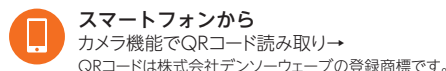
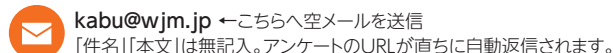
ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です

①下記URLにアクセス ②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示



……………以下の方でもアンケートにアクセスできます……………



本アンケートは、株式会社a2mediaの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
<https://www.a2media.co.jp>

「e-株主リサーチ事務局」
アンケートのお問い合わせ MAIL: info@e-kabunushi.com (2108)

会社概要 (2021年9月30日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川2-2-20
設立	1981年2月6日
資本金	21億15百万円
従業員数	連結1,204名 単体996名
上場取引所	東京証券取引所 第一部
連結子会社	Synexmed (Hong Kong) Limited 心宜医療器械(深圳)有限公司 JLL Malaysia Sdn. Bhd.

株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告 https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

役員 (2021年9月30日現在)

代表取締役社長	鈴木 啓介	社外取締役	佐々木文裕
代表取締役副社長	鈴木 厚宏	社外取締役	池井 良彰
常務取締役	高橋 省悟	社外取締役	内木 祐介
常務取締役	野上 和彦	取締役(常勤監査等委員)	神谷 安恒
常務取締役	山田 健二	社外取締役(監査等委員)	中村 勝彦
取締役	高宮 徹	社外取締役(監査等委員)	浅利 大造
取締役	出井 正	社外取締役(監査等委員)	苅米 裕
取締役	干場由美子		

株式に関するお問い合わせ

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

▶特別口座に記録された株式をお持ちの株主様
特別口座管理機関にお問い合わせください。
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話：0120-232-711 (通話料無料)

2. 未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店でのお支払いいたします。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。